

各 位

上場会社名	株式会社 プロルート丸光
代表者	代表取締役社長 前田 佳央
(コード番号)	8256)
問合せ先責任者	常務取締役 管理本部長 原田 一美
(TEL)	06-6262-0303)

業績予想の修正並びに営業損失の計上に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、平成22年10月21日付「業績予想の修正に関するお知らせ」において公表いたしました平成23年3月期の業績予想を下記の通り修正することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

また、平成23年3月期第3四半期連結累計期間において、269百万円の営業損失が発生しておりますので、お知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成23年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成22年3月21日～平成23年3月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	24,676	8	△178	10	0.55
今回発表予想(B)	24,230	△390	△560	△400	△22.36
増減額(B-A)	△446	△398	△382	△410	
増減率(%)	△1.8	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	26,644	259	96	164	9.10

平成23年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成22年3月21日～平成23年3月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	23,000	49	△127	60	3.32
今回発表予想(B)	22,960	△25	△185	0	0.00
増減額(B-A)	△40	△74	△58	△60	
増減率(%)	△0.2	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	25,559	278	118	206	11.44

修正の理由

<連結業績>

当社グループの属する衣料品業界は、消費者の節約志向および低価格志向が強く、個人消費の回復の遅れに伴う企業業績の低迷が依然として続いております。

この様な厳しい環境下、当第3四半期連結会計期間において、個別業績は、既に実施しております経営改善により前期と比較し漸く底打ち致しましたが、連結子会社にて売掛金の回収懸念があり、2億12百万円の貸倒引当金の計上及び棚卸評価損57百万円を計上いたしました。

以上の結果、平成23年3月期通期連結業績予想の売上高は、得意先の在庫調整等販売不振の影響により242億30百万円(前回修正開示比4億46百万円減少)となる見込みであり、営業損失は3億90百万円(前回修正開示の連結営業利益は8百万円)、経常損失は5億60百万円(前回修正開示比3億82百万円の損失増)、当期純損失は4億円(前回修正開示の当期純利益は10百万円)の見込みであります。

<個別業績>

当社第3四半期会計期間(平成22年9月21日～平成22年12月20日)においては、小売店市場の秋物商戦悪化が影響して、前半戦は冬物納品時期が遅れたことにより苦戦を強いられるとともに、後半戦は、気候が例年並みに戻り、客数増の兆しもあって、防寒要素の強い商品に活気が戻り業績の回復は見られましたが、小売市場全体の環境は厳しく、厳しい経営環境が続きました。

この結果、当第3四半期会計期間における売上高は70億6百万円と業績修正開示時の予想を84百万円下回る(対前年同期比3億42百万円減少、減少率4.7%)見込みであります。

収益面においては、経費節減に努めましたが、社債発行費用の負担増等により、営業利益は1億63百万円の計上(対前年同期比81百万円減少、減少率33.4%)、経常利益は1億24百万円(対前年同期比87百万円減少、減少率41.2%)、四半期純利益67百万円(対前年同期比65百万円減少、減少率49.0%)となる見込みであります。

以上の結果、平成23年3月期通期個別業績予想は、上記の経営環境及び第3四半期累計期間の業績結果を踏まえ、第4四半期も引き続き厳しい売上状態が続くものと想定しており、前回(平成22年10月21日付)発表の経営対策(当社の強みを強化すべく商品力の革新、それに対応した経営組織の再編、海外直取引の強化によるコスト力の一層の強化、併せて、資産全般の更なる有効活用の推進等)を徹底して前倒しを実施し、経営改善を図ります。

以上を総合し、業績予想を修正いたします。

※上記の業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により記載の予想数値と異なる可能性があります。

●連結子会社に関する営業損失の計上について

当第3四半期連結会計期間において、連結子会社にて売掛金の回収懸念があり、貸倒引当金及び棚卸評価損を計上する必要が生じたので、お知らせいたします。

<営業損失の計上>

1. 営業損失の内容

平成22年12月期	貸倒引当金繰入額	212百万円
	棚卸評価損	57百万円
	営業損失の総額	269百万円

2. 計上に至った経緯

連結子会社にて売掛金の回収懸念が発生したため。

以 上